

あの頃、そしてこれから vol.08

創刊から35年——長く25ansを支えてくれている執筆陣のエッセイをお届けする連載企画。
今月は、学術知識に裏づけられた洞察力で幅広く活躍中の中野香織さん。
鋭い視点でラグジュアリーな世界を探求してきた先輩からのメッセージです。

Illustration : MICHIO SHIRAHAMA

師にして姉にして親友の
『25ans』と歩んだ35年

文 中野香織

PROFILE ●なかの かおり ●服飾史家、エッセイスト、明治大学国際日本学部特任教授。ファッション史から最新モード事情まで、幅広い視野から研究、執筆、レクチャーを行っている。東京大学大学院修了、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆家に。『モードの方程式』（新潮文庫）、『モードとエロスと資本』（集英社新書）など著書多数。現在、ロイヤルスタイル関連の本を執筆中。オフィシャルウェブサイト <http://www.kaori-nakano.com/>

35周年おめでとうございます。私の『25ans』読者歴もほぼ35年ということになります。バブル経済下にあった20代のころ、周囲の友人は、小首をかじげた読者モデルがひしめく赤文字系雑誌の影響を色濃く受けておりましたが、私はその方向には流れず、断固として『25ans』だけを買っていました。

非日常感をたたえるモデルがまとう最新モードが悠々と紹介されるファッションページ、美の本質にあらゆる角度から迫るマニアックなビューティーページ、才能あふれる超絶美女が紹介される切り口鋭いカルチュアページ、羨望を通り越して驚愕の世界が広がる社交ページ、そして華麗な広告ビジュアル。王道をいくヒロインはかような世界に生きるべしというラグジュアリーランドのなかに、時折編集役員によるユーモアのある自虐や皮肉がびりりとさしはさまれるという知的なサーブिसにも、なんとも好ましい親近感を覚えていました。結局、30代になって40代を超えても、ファッション、ビューティー、社交における価値基準のよりどころとなったのは『25ans』でした。プリンセスの品格と魅力をたたえながら、師にして姉にして（たとえ私が年上でも）親友のようでもあるタフなバイブル、それが私にとっての『25ans』なのです。

別格の思い入れのある存在であるがゆえに、8年ほど前に、予期せずお仕事をいただいたときには、驚喜を通り越した感動に襲われたことを覚えています。美の哲学やヒロインの王道を教えてくださいました『25ans』に対する最大限の敬意と愛情をこめて書いた連載「ダイアナ妃という伝説」は、私のキャリアのなかでもひとつの転機となった思い出深い仕事です。今も自分が書いたダイアナ伝を読んで涙を落としてしまうほど。その後も英国ロイヤルメンパーやファーストレディー、ラグ

1年間の本格連載がスタートした思い出深い2008年

2008年1月号

「ラグジュアリー・クエスト
——贅沢の本質」連載開始!



この第1回では、ラグジュアリー
の瑞々しさ、感動が薄れている
時代に「必要の先の、心の必要」
を探すことの稀少性を語った中
野さん。この後も「Refusal ラグ
ジュアリー」という喜びを拒絶し
てみせる快樂”Stamina 贅沢
を味わい尽くすには、体力もま
た必要”など名言、名作が続き
ます。歴史と最新モードの豊富
な知識をもとに、スパイスの効
いた文章が光る大好評連載に。
大きな反響を呼びました。

初登場・初連載から半年。2007年をしめくくる表紙

2007年12月号

ダイアナ妃没後10年に、
改めてその魅力をふりかえる



2007年8月号から12月号まで掲載されたのが中野さん初登場の連載「ダイアナ妃という伝説」でした。「結婚について」「ふたりの王子について」「人間愛について」「ファッションについて」そしてこの号では「ダイアナ妃がもたらした「革命」」について。「ファッション愛や個人的な思いも含め、ダイアナ妃に託して表現できたことが感慨深い連載でした」と中野さん。杏さんも初めてカバガールとして登場。



イラストレーション
白浜美千代

PROFILE ● しらはま・みちよ ● イラストレーター。大阪生まれ。25ansでは、1985年より活動。89年よりニューヨークのFITで学ぶ。2003年、講談社出版文化賞さしえ賞受賞。書籍カバーや広告、小説挿絵なども幅広く手がける。

ジュアリーワールドに関して続々と挑戦しがいのあるお題を与えていただき、優秀な編集者に導かれながら、仕事を通して学び続けることができている。現在も『25ans』とともにその究極版『リシエス』において、互いへの信頼に基づきお付き合いが続いておりますが、このようなよき関係は、20代から『25ans』ワールドに夢を見続けた私にとって、至福であり誇りでもあるのです。

このような偶然の、いや考えようによっては必然かもしれないめぐり合わせによる幸福を感じられることは、実は年を重ねるごとに飛躍的に増えています。あの時の経験が、時を経てこう結実したのか、という感慨深いできごとが連続花火のように起きているのです。まだまだ学びの途中にあり、偉そうなことを語るつもりはありませんが、たとえ少数派であろうと素敵だと感じることを夢中で愛し、たとえ想定しなかったものであろうといただいた仕事やご縁を大切に扱ってきたその積み重ねが、思ってもみなかった幸運をもたらしてくれているのかもしれない。

明日は何が起きるかわかりませんが、いえ、何が起きるかわからないこそ、やせ我慢しても自分の人生のヒロインの王道を歩き、偶然のご縁を必然にする努力を楽しみ、それがもたらすであろうめぐり合わせに感謝しながら生きていければ幸いです。

ウィリアム王子ご成婚を機に英国王室を大特集

2011年6月号

合計14ページの大人気企画で
ラブ・ストーリーを徹底検証



“ロイヤル婚”物語

ロイヤル・ウェディング直前の企画で、ヴィクトリア女王、ジョージ6世の妃エリザベス・バウズ=ライオン、ウィンザー公爵夫人ウォリス、女王エリザベス2世、マーガレット女王のストーリーを執筆。「ロイヤル関連の仕事続ける始まりとなった企画です」と中野さん。同号では「ケイト・ミドルトン流」スローニースタイルのファッション特集へも寄稿。記念碑的な英国ロイヤル特集号となりました。